



# 護法

第48号

発行  
福井県真宗高田派護法団  
福井市花堂南2-10-35  
真宗高田派福井別院内



伝燈奉告法会で御廟に向かわれる法主殿

高田専修寺の法灯は御開山「親鸞聖人」より高弟真仏・頭智上人へと次第相承され、中興真慧上人を経て爾来八百年の長きに及んでいます。この法灯は御開山聖人直々のみ教えと宗風を今にそのまま伝えていきます。平成二十八年三月二十五日から二十七日までの三日間、親鸞聖人のみ教えを第二十四世鸞猷法主から第二十五世慈祥法主へと継承されたことを阿弥陀如来と御開山聖人に奉告する法会が行われました。

## 真宗高田派 第二十五世法主

でんとうほう こくほうえ

# 伝燈奉告法会



第二十五世慈祥法主殿

## 厳かに伝燈奉告法会 第二十五世法主「念仏高田、社会に貢献を」

福井から百十余名が団参

伝燈奉告法会には福井県の約百二十人を含め全国各地から末寺住職、檀信徒、関係団体が参拝しました。法会中は法主殿の表白、縁儀式、記念講演があり、初日は稚児練りの後、他宗派及びご親戚のご

招待、二日目は真宗各派御門主の御出仕、御焼香が行われました。三日目は御参廟の後、各派宗務総長が来山され、継承を祝福されました。福井県からは二日目の二十六日、バス



三台に分乗した住職、檀信徒が参拝。広々とした御影堂で厳かに読経、表白が行われ、熱心に耳を傾けていました。表白の中で慈祥法主は、高田専修寺の法灯が連綿と受け継がれてきたことにふれられた上で「念仏高田を取り戻し社会に貢献することこそが私の責務」と決意を述べられました。

## 表白

大恩教主釈迦如来、極楽能化弥陀善逝、三國伝来一光三尊善光寺如来、御開山親鸞聖人初め、専修伝燈歴代の先師上人に謹み敬つて申し上げます。釈慈祥、先年専修伝燈第二十五世を継承して以来、二年半の年月を経て、ここに本年三月二十五日より伝燈奉告法会を執行することとなりました。これに際し、一言言上させて頂きたく存じます。

思い返してみますと、高田専修寺は御開山聖人閑東布教中の嘉禄元年、夢告により聖人自ら御創建なされたものであり、再度の夢告により、信州善光寺より一光三尊仏をお迎えし、本尊としたものです。この一光三尊仏こそ、法会期間中、如来堂において御開扉しております、天下随一の霊仏です。一光三尊の御仏縁に恵まれ、伝燈奉告の日を迎えましたことは稀有最勝と言わざるを得ません。爾来八百年近くに及び、聖人の高弟真仏・頭智上人から中興真慧上人を経て高田専修寺の法灯は連綿と継承されて参りました。それは、聖人の御心やお示しにまさり、さかも違ふことなく現代にまで伝持されて来た点において、この上なく尊く、かけがえないものであると、その証として、高田宝庫には聖人が真仏・頭智両上人に託された幾多の聖人御直筆のお聖教が今に伝えられ、如来堂には比叡山よりその正統性を認められ、贈られた「証拠の如来」が御安置されています。高田専修寺の法灯が格別に尊く、正統であることは衆目の認める所であり、その法灯を受け継ぐことは重きが中になお重いものがあります。釈慈祥、到底伝燈の器ではありませんが、釈迦弥陀二尊の御加護を蒙り、御開山聖人並びに専修伝燈歴代上人の矜哀に遇い、全国門末の期待をも鑑みて、敢えて伝燈の意を決したものです。

思うに、真宗高田派は実に小さな教団ですが、これからの社会に貢献してゆく多大な使命を帯び、大きな可能性を秘めています。日本及び世界が日々対立と混迷を深める中、聖人直々に賜ったお念仏をもつて世界平和を目指すことは、まず私共が率先して取り組むべき課題に他なりません。「念仏高田」を取り戻し、社会に貢献することこそが第二十五世伝燈の私の責務ではなからうかと存じます。ここに、専修伝燈第二十五世伝燈奉告法会に当たり、釈慈祥謹んで申し上げます。

平成二十八年三月二十五日

高田山専修寺第二十五世

釈慈祥

## 檀信徒 団体参拝

真宗高田派護法団前団長  
一組 安養院住職 松木 光仁

## 団参参加の御礼

去る三月二十六日の本山専修寺伝燈奉告法会には百十余名の檀信徒の皆様にご参加頂き誠に有り難うございました。心より御礼申し上げます。添乗の理事の方々、の協力もあり事故もなく無事本山参拝出来ました事、仏祖のお陰と手を合わせる次第です。 合掌



福井から参加した百十余名の檀信徒の方々

寺院莊嚴仏具 内陣漆箔工事 仏具修復  
金物仏具お磨き不要加工 内陣用椅子

お仏壇の 吉祥堂

福井店:福井市米松2丁目21-30/TEL.0776-53-3030  
武生店:越前市家久町28-3-1/TEL.0778-23-6600

<http://kissyodo.jp/>

福井県眞宗高田派護法団 団長就任挨拶

心の救い求める声が拡大  
檀信徒と結びつきさらに強く

二組 法光寺住職 佐々木 實弘

この度、はからずも福井県眞宗高田派護法団々長を拝命し、その重責を担うことになりました。微力ではありますが、が護法団理事の皆さまとともに与えられた職務に邁進する所存でございます。なにとぞ前団長同様、格段のご指導、ご支援をお願いいたします。

さて、この「護法」第48号でもお伝えしておりますように第二十五世慈祥法主殿の伝灯奉告法会が三月、盛大に厳修されました。私も福井県団参の一人として尊いご縁にお会いすることができました。法会の中で、法主殿の専修寺法灯継承への固い御決意を同行とともに拝聴させていただきました。深い感銘を受けました。

伝灯奉告法会に先立ちここ三、四年の間に親鸞聖人七百五十回報恩大法会、十七年に一度の一光三尊佛出開帳と大行事が相次いで挙行されてきました。幸いにいずれのご縁にも接することができ、専修寺の伝統、歴史の重みを感じました。同時に末寺に関わる一人として一層身の引き締まる思いです。

現代は、物は豊かになり生活は快適になりながら、授けられた命の尊さや周囲への感謝の気持ち薄れつつある一と

心配の音が聞かれます。他人様のことではなくこの私にまぎ振り返らなくてはなりません。一方で、心の救いを求める声は日増しに拡大しているとも言われます。この現状に寺院や私たち僧侶が真剣に向き合い、やれることから一つひとつ取り組んでいかなければなりません。

護法団としましては、団員がしっかりと手をたずさえ研さんに取り組み、知識や資質を高めつつ、檀信徒や地域との結びつきを一層強めていければと願っております。檀信徒の皆様におかれましては、より多くの法縁を結んでいただきお念仏相続の日暮しを深められますよう念じ就任のご挨拶といたします。 合掌

護法団理事役員名と担当業務

(平成二十八年五月〜平成二十九年五月)

一組

- (副団長) 寶林寺 南條 圓然
- (理事) 本流院 秦 顕乗
- (研修委員長) 勝光寺 佐々木俊英
- (監事) 顕正寺 有馬 善明

二組※

- (団長) 法光寺 佐々木實弘
- (庶務会計) 眞浄寺 日下 康正
- (理事) 勝林寺 武田 純真
- (情書委員長) 正行寺 佐々木賢夫
- (監事) 教林寺 三浦 世雄

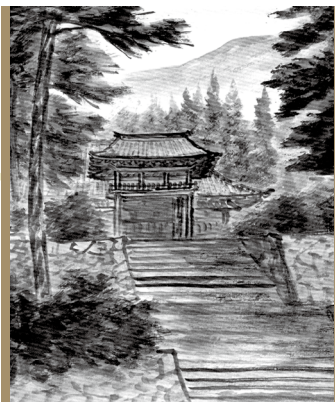
※二組は旧二組と旧三組が合併したものです。

特集 シリーズ福井の寺々

越前高田派 寺院探訪

第五回 上宮山聖徳寺

当山は聖徳太子が上宮太子とも言われるように、山号も寺号も聖徳太子に由来する。親鸞聖人は聖徳太子を「和国の教主」、日本のお釈迦様として生涯敬われた。そのお心を頂いてきた寺である。



越前若狭名刹水墨画集より

聖徳寺の記があり、四五〇年から五〇〇年前の事と考えられる。本堂は江戸時代の元禄年間に焼失の後、寛政初頭に再建された。総樺造りの豪壮な建築で、外廻りに一本だけ栗柱を使用するが、之は魔除け柱と伝えられる。山門は焼失を免れ移築された。楼門形式の簡素な建築で、中世の面影を今に伝えている。

聖徳太子立像

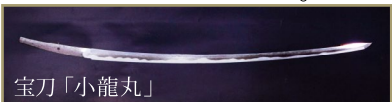
太子一四才の等身大の木像で、像高一三二・五センチ。遺存する彩色は造立当初のもので誠に貴重である。体内の墨書銘に願主は聖徳寺の開基とされる西妙、紀年は鎌倉時代の嘉暦四年とあり、県の重



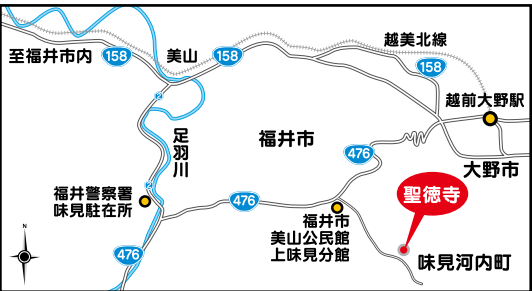
聖徳太子立像

和同族の故同心し、北条氏に敗北、自刃した。子の義則らは越前に逃れ、その後、越前で布教していた高田派の顕智上人に帰依して西妙と号し、府中の村国に一字を創建した。南北朝時代、日野川の戦いで新田義貞、足利高経が戦った時期に、戦火を避けて池田の松ヶ谷に移る。現在も寺跡には太子屋敷の字名が残っている。その後、現地に移るが、『朝倉始末記』に味美谷の

要文化財に指定されている。尚、五〇年に一度の本開扉は、太子像を中尊に奉安して厳修される。宝刀「小龍丸」土屋家祖先の佩用刀で、鎌倉時代初期の備前三郎国宗が鍛えた全長九六・五センチに及ぶ太刀である。太子像



宝刀「小龍丸」



〒910-2463 福井県 福井市味見河内 25-26 電話：0776-93-2251



白象唐子

遊戯の屏風

江戸時代の長澤蘆雪の大作で、銀地に極彩色。左双に大白象とそれに戯れる唐子を書き、右双には見物に来る唐子の長い列を画く。顔料が良く色彩はあざやかで、唐子たちの表情も豊かである。

白象唐子遊戯の屏風

上宮山 聖徳寺 土屋 宗亮 現在の味見で、当時は味美と記す

思いやり・感謝で育む人・未来

**かじそ仏壇**

0120-54-1932

御用は一休さんに

ホームページ <http://www.kajiso.co.jp/>

福井総本店: 福井県福井市米松 2丁目24-36 電話 0776-54-1933

和蠟燭・薫香の製造販売

コダイコクヤ

呉服町

**小大五香**

0120-22-0986

福井市順化2-15-9

法衣・幕・旗・記念品・寺院用仏具  
社寺建築・稚児貸衣装・仏壇

**北山法衣仏具株式会社**

〒910-0003 福井市松本3丁目13-16 (西別院前)

**0120-52-1844**

TEL: 0776-25-1844/FAX: 0776-25-9108

ホームページ <http://www.kitayama.cc>

E-mail [kihoui@skyblue.ocn.ne.jp](mailto:kihoui@skyblue.ocn.ne.jp)

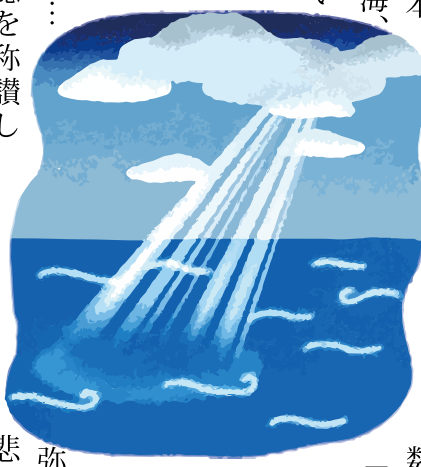
一般建設業(内装仕上工事業)福井県知事許可(般-11)第8681号

ひとくち法話

「法灯の歴史・念仏高田・光りのくにへ」

一組 遠成寺住職 井田 光圓

三月二十六日に福井県内の末寺寺院皆様方とご一緒に専修寺・第二十五世・常磐井慈祥法主の伝灯奉告法会に出勤しました。御法主は「真宗門徒にとつて法灯とはお念仏に他ならないと表白され、『念仏高田』を取り戻し、社会に貢献することが私の責務」と決意を述べられました。親鸞聖人の「念仏」とはどのようなものであったのだろうか？という根本的な問題を深く考えさせられました。聖人は「教



悲の父母

行信証』はじめ多くの著作の中で、『海』に関する言葉：群生海、一乗海、真如海、本願海、大信海、大宝海、生死の大海など、用いています。仏教史学者の森章吉氏によれば、その数は一〇四箇所、三十二種に及ぶとされます。「光」に関する言葉：無量光、如来の徳を称讚した十二光、法身の光輪、智慧の光明、清浄光明、光明

の広海など如来の本願によって衆生を救済する手立てを数多くの「光」という言葉で顕しています。「釈迦・弥陀は慈の父母」ともおっしゃられておりますが、「海と光」も「釈迦・弥陀

の慈悲の心」「如来の本願」「自然法爾」「念仏」と説いています。梅原猛氏は、聖人の思想の根本を「波荒く、陰影の深い、厳しい日本海」と捉え、京都から越後への流罪で「京都」へと美しい光の写実と自身の篤い言葉で親鸞聖人の「念仏の一生」を見事に表現されております。皆様もご機会がございましたら是非一度、お手にとつてご覧

株式会社  
**サワザキ佛壇店**  
〒910-0373 福井県坂井市丸岡町高柳2-16  
TEL: 0776-66-6560  
FAX: 0776-67-1050

ひとくち法話

「感謝の心」

二組 願生寺住職 出見隆文

現今の新聞、テレビ等の報道で賑わしている「IS」「空爆」「難民」、国内では「いじめ」「虐待」「残虐」等々非常に嘆かわしく残念な文字が飛び交っています。これらの行動を憂い、少しでも今の世の中を良くしようと善意の輪を通じて、道徳の向上につなげるよう、普及、啓蒙をして

欠如している公德心、礼儀作法等が少しでも向上すればこの会は輪を広げています。この本の中の一節に「感謝の心」という表題があり、よくできた人には、何事にも感謝する心をもっていきます。食事をいただくとき、「いただきま

命を与えられた、生かされている、今日も一日元気で頑張るぞと言うありがたい感謝の心を持って飛び起きる。何事にも感謝し、ありがとうがたう人にう人は不満

「世の中安穏なれ、仏法ひろまれ」いまさら申すまでもありませんが、宗祖親鸞聖人が開示されたお言葉で、殺伐とした今、一番この世の中になお言葉ではないでしょうか。このお言葉を導き広めていくのが我々に与えられた使命ではな

法衣・寺院用仏具・念珠・稚児貸衣装  
仏教用品総合製作  
**ヒサノ法衣仏具**  
〒910-0019 福井市春山2丁目8-26  
TEL:0776-21-3515 FAX:0776-21-3559  
E-mail:hisano@ruby.ocn.ne.jp

任意団体がある。その会から出版されている「善意のひろば」という一冊のエッセイ集の表紙には「楽しく正しく生きるための処世術」「人生つまずかないための知恵」、目次には「楽しく生きるために」「心の持ち方」「心得集」等々人生生きていくための心得が短編的に記載されていて、今の世の中に

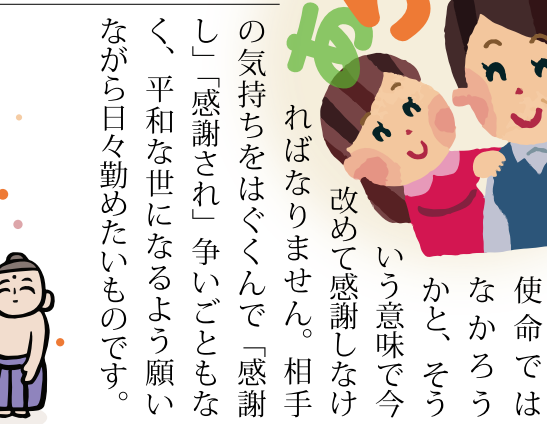
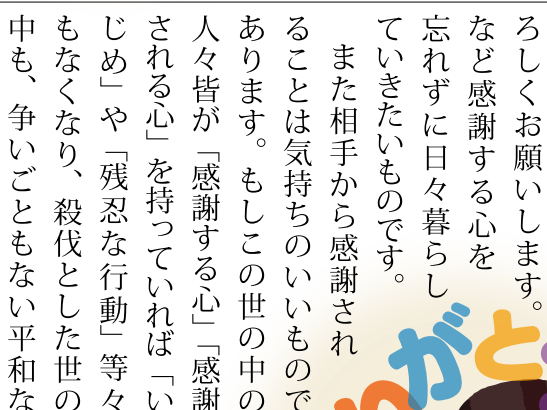
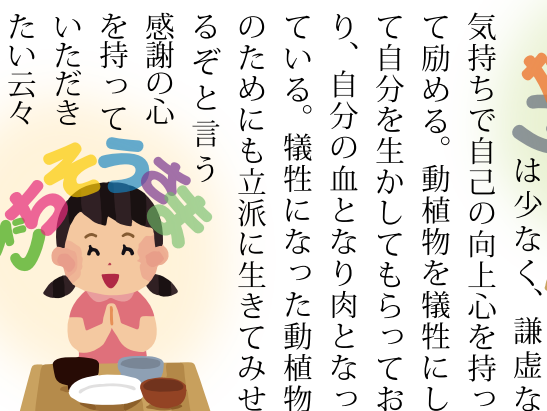
「感謝の心」というのも同じ感謝の心です。感謝を込めていくべきです。とか、寝るときは今日一日無事に元気で充実した一日であったと、また朝目覚めたときも今日も

感謝の心を持っていただきたい云々と書かれている。ところで私たちは常日頃なにげなく

「いただきます」「ごちそうさまでした」と口ずさむだけで感謝の心が込められていない感じがします。改めて心込めて手を合わせなければと思いま

「感謝され」争いごともなく、平和な世になるよう願いつつながら日々勤めたいものです。

大本山永平寺御用達  
和蠟燭製造・薫香 卸  
**大黒屋本舗**  
〒918-8001 福井市つくも1丁目5の22  
TEL(0776)36-3747(代)  
FAX(0776)36-7087



参加報告

古く高田派史上、繋がり深い福井と北海道との絆  
高田青年の集い「北海道大会」

二組 勝鬘寺衆徒 護法団青年部部長 長井眞仁

日頃は青年部活動に、多大なご支援ご協力を賜り誠にありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。

さてこの度、去る六月二十五、二十六日に開催されました、高田青年のつどい北海道大会に部員八名で参加させていただきました。高田の歴史上において、福井と北海道の繋がりが深い事は部員皆認知しており、北海道大会の案内があった昨年より参



北海道別院本堂



加しようとして計画しておりました。北海道大会には全国より六十三名の参加者があり盛大に執り行われました。まず初日は、旭山動物園園長の坂東氏による「伝えるのは命、繋ぐのは命。」と題した基調講演を拝聴しました。命の尊さ、命の伝承など、命を見つめる原点を学ぶ事ができました。二日目は北海道別院輪番島光志師による、「高田北海道の歴史」を学びました。高田派北海道開教の歴史を知り、高田派寺院の先人各位のご苦労を

ご要望の多かった納骨壇36基を新たに増設。



納骨堂左右の各位牌壇中央に片方18基、計36基の新設納骨壇です。豪華な装飾を施したスチール製の右開きの仕様。御遺骨と御位牌をゆつたりお納めいただけます。サイズ●奥行284×高さ307×幅199 (mm)

納骨に三重の本山まで  
ちよつと遠いなあ

納骨壇全24基(残り4基)  
納骨壇開口幅  
本尊阿弥陀如来像下の引戸内に「南無阿弥陀仏」の号と「俱会一处」の合葬納骨口より有縁の方々を一同に安置、恭敬させていただきます。

納骨は福井別院へ

本願寺赤野井別院で歴史の説明を聞く団員

通寺を参拝

長浜別院大

真宗大谷派

また近くの

れまじした。

さしに驚かさ

クエアでガラス工芸品の精緻

た。この後、長浜市の黒壁ス

研修旅行

護法団夏季研修旅行報告  
真宗教化の拠点寺院訪ねる。

二組 真浄寺住職 護法団庶務会計 日下康正

本年度の護法団夏季研修旅行は七月二十八日に行われ、団員二十一人が滋賀県守山市にある本願寺赤野井別院や佐川美術館などを訪問しました。

琵琶湖近くに位置する赤野井別院は古くから湖南地方の真宗教化の拠点となっていたようです。本堂(重要文化財)には「湖南法城」の額が掲げられていることからその一端をうかがい



本願寺赤野井別院で歴史の説明を聞く団員

知ることが出来ます。

佐川美術館では丁度、ヴェ

ネツィア展が開催されていて

貴重な美術品を鑑賞しまし

た。この後、長浜市の黒壁ス

クエアでガラス工芸品の精緻

さに驚かさ

れまじした。

また近くの

……とお思いの方に「納骨」とお参りが出来るようになります。

納骨壇全24基(残り4基)

納骨壇開口幅

本尊阿弥陀如来像下の引戸内に「南無阿弥陀仏」の号と「俱会一处」の合葬納骨口より有縁の方々を一同に安置、恭敬させていただきます。

納骨壇 五十万円

新設納骨壇 二十五万円

位牌壇 四万円

位牌安置のみ 二万五千元

一般納骨のみ 二万円

※記載されている更追加金は変更する場合があります。予めご了承ください。

納骨位牌敬置永代供養

「納骨・位牌堂法会」

今年9月15日 厳修

納骨位牌堂ご加入のお檀家には事前にご連絡申し上げます。

ご門徒の皆様へ

福井別院「護持費」納入のお願い  
福井別院は、県下高田派寺院・檀信徒の皆様によって護持運営されております。お手継ぎのお寺様同様、福井別院へも懇意をお寄せいただきたく、納入をお願いいたしております。

福井別院護持費 五〇〇〇円 (檀家・年間)

「護持費」納入方法  
一、地区お世話方に納入  
一、直接、お寺様へ納入  
お寺様に集まった「護持費」は一括して別院へ納入していただいております。これまでに未納の檀信徒の皆様にもぜひ「護持費」納入をお願い申し上げます。

真宗高田派専修寺 福井別院  
〒918-8015 福井県福井市花堂南2丁目10-35 電話:0776-35-2299/FAX:0776-35-2291  
Mail:fukuitakadabetsuin@orange.plala.or.jp  
福井別院 年間法要 1月:御正忌/3月:春季彼岸会/5月:宗祖聖人降誕会/7月:永代経 9月:納骨位牌堂法会・秋季彼岸会/11月:報恩講

Table with 3 columns: Month (6月, 9月, 10月, 11月), Temple Name, and Date. Lists various temples and their scheduled events.

平成二十八年真宗高田派 福井県内 末寺報恩講